知事記者会見の概要

日　　時：令和5年2月15日（水）16:30～16:42

場　　所：502会議室

出席記者：12名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

(1) 新型コロナウイルス感染症への対応について

フリー質問

(1) 発表事項に関連して

＜幹事社：山新・時事・SAY＞

☆発表事項

知事

皆様、お集まりいただきありがとうございます。

本県の新型コロナの感染状況ですが、全体として緩やかな減少傾向が続いております。15日現在で、病床使用率は15.6%、重症病床の使用率は3.6%となっているところであります。

こうした状況の中、先週、政府より、これまで基本的な感染防止対策の柱の1つとしていた「マスクの着用」について、3月13日から、「個人の判断に委ねることを基本とする」との方針が示されたところであります。先ほど開催しました「危機対策本部員会議」では、こうした政府の方針を踏まえた県としての今後のマスク着用に係る取扱いなどについて、協議・決定をしたところであります。

具体的には、来月、3月13日以降、政府の方針に基づき、マスクの着用につきまして、個人の主体的な選択を尊重し、個人の判断に委ねることを基本といたします。

その際、高齢者の方や基礎疾患のある方、妊婦の方など重症化リスクの高い方への感染拡大を防止するため、医療機関への受診、医療機関や高齢者施設等への訪問、混雑した電車やバスなど、政府が示すマスク着用が効果的な場面などに留意していただきますようお願いいたします。

また、これから進学や就職などで人の動きが活発になる時期を迎えますので、感染の再拡大も懸念されるところでありますので、マスクの着用が「個人の判断に委ねることを基本とする」こととなった後も、換気の励行や、ゼロ密、こまめな手洗い、消毒などの基本的な感染防止対策を徹底していただきますようお願いいたします。

「マスクの着用」につきましては、コロナ禍が始まってから3年にわたって、基本的な感染防止対策の1つとして、様々な場面、様々な手法で、県民の皆様にご協力をお願いしてきたものであります。これまでの県民の皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。

今後も、当面の間は、医療機関や高齢者施設、事業者が感染対策上必要と判断する場合などには、マスクの着用が推奨されることにもご留意をいただきながら、個人の意思に反して、マスクの着脱が強いられることのないよう、また、マスクの有無による差別や偏見が生じることがないよう、引き続き、県民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

感染対策と社会経済活動の両立、そして1日も早いコロナの収束に向けて、県民の皆様、市町村と一丸となってしっかりと取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

私からは以上です。

☆フリー質問

記者

山形新聞の鈴木です。よろしくお願いいたします。

「マスクの着用は個人の判断を基本とする」ということになりますが、知事は3月13日以降、どのような形で勤務されようと考えてらっしゃるのかということと、職員に対してはどのような指示をされる予定か教えてください。

知事

はい。基本的にはですね、政府の方針を踏まえた「個人の判断を尊重する」というようなことに、私自身もまた職員の皆さんにも、同じようなことを考えております。

そうですね、やっぱり、たぶん、場面に応じてということになるかもしれません。もちろん、混雑しているような時には、マスク着用も考えられますし、一定の距離ですね、保てるような場合には、マスクは外すことになるのかなというふうに思っております。自宅では今でも外しておりますし、県庁に来て知事室は、本当に一人しかおりませんので、外していることが多くてですね、ただ打ち合わせの時などにはマスクをしたりしますけれども、それでも距離を保てたり、またアクリル板がこのようにあったりですね、そういった時には、だんだんと外すことになるのかなというふうに思っています。

職員の皆さんにも全く同じであります。これまでは、不織布マスクの正しい着用の徹底について、本当に繰り返し繰り返し周知をしてまいりました。今後はですね、本日決定した、県としてのマスク着用の考え方に基づいて、マスク着用が必要な場合を除いては、「個人の判断に委ねる」ということで、それが基本になるというふうにしていきたいと思っております。

記者

はい、ありがとうございます。

記者

朝日新聞の小川と申します。よろしくお願いします。先日、全国知事会の会長を務める鳥取県の平井知事もですね、「全部個人の判断と言われても困る」という戸惑いの声も言っておりましたが、県民含めですね、少なからず戸惑う方も少なくないかと思うのですが、そこら辺何か知事として呼びかける言葉があればお願いします。

知事

そうですね。やっぱり基本は、今日、本部員会議で協議決定した、そのことをやはりできる限りしっかりとですね、周知をしていく、そのことに尽きるのかなというふうに思っているところです。やっぱり、重症化リスクのある方と接する時は、やはり、そういった方々ご自身もですね、たぶんマスクを着用されるかなと思いますし、医療機関とか、介護施設・障害者施設といったところに訪問する時にはマスク着用というように、場面場面についてですね、やはり分かりやすく何回も周知をしていくことが大事なのではないかなと

いうふうに思っております。

記者
　はい、ありがとうございます。

記者
　読売新聞の藤本と申します。よろしくお願いします。このコロナ禍が始まった時は、マスクを着けていない生活からマスクを着ける生活に変わった時に、マスク警察であったりとか、変化の際にマスクの偏見や差別、そういったものが出た場面も多く見られたと思います。今後、逆に着けない場面に移行する時に来ていると思うのですけれども、そういった差別や偏見が生まれないために県として何かできる対応・対策など、県、知事としてのお考えがあれば伺わせていただきたいと思います。

知事
　そうですね。やはり、「個人の判断に委ねることを基本とする」という政府の方針でありますし、それを県としても協議決定をしたところでありますので、やはり県民の皆さんに、そういったことを周知する、そこがやっぱり一番大事なのかなというふうに思っています。そして、「マスクを強いることがないように」ということでありますので、偏見や差別、そういったことがですね、発生しないように、できる限り呼びかけていくということは大事なことだろうと思います。
　これは、学校現場においてもそうであると思っておりますので、教育委員会でもですね、文科省から具体的ないろいろなことがこれから新しく示されると、4月1日以降についてですね、示されるとは聞いておりますけれども、そこでもやっぱり、差別・偏見が生じないように、適切に指導していくというふうに聞いておりますので、県としても、やはり一般の皆さんでありましても、差別・偏見が起きないようにということで、呼びかけていきたいというふうに思っております。